

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972400196		
法人名	有限会社 ティアンドエス		
事業所名	グループホーム青い空		
所在地	栃木県佐野市山形町296		
自己評価作成日	平成22年8月18日	評価結果市町村受理日	平成22年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境・雰囲気の中での生活が送れるように、援助している。 医療的な行為がなければ、最後までお世話している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは桐生田沼街道から少し入った、里山や竹林に囲まれ四季の自然が楽しめる場所に立地している。ホームでは常に家庭的な雰囲気を保ちながら、入居者が当たり前の生活が送れるように支援に取り組んでいる。毎月、主治医の往診があり、入居者の健康管理と家族の安心にもつながっている他、重度化や終末期の対応にも活かされている。管理者は職員の質向上のため外部の研修会には率先して参加させており、職員も受講出来る事に対して仕事をしながら勉強ができていくという意識が高い。日常的な外出支援の一つとして、家族にも参加を呼びかけた一泊の温泉旅行も実施するなど、職員の熱い思いと温かさを醸し出しているホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の方は人生の先輩であることを忘れず、介護マナー5原則を掲げ、朝の打ち合わせ時に読み上げ、日々心がけている	事業所独自の介護マナー5原則《挨拶・表情・身だしなみ・言葉づかい・態度》を作成しており事務室に掲示してある。管理者、職員は朝のミーティング時に読み上げて共有を図ると共に、日々の支援の中から修正をするよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事活動に参加し、親睦を深めている	自治会に加入している。地域の行事である祭りや新年会に参加したり、年2回の地域の清掃及び神社の清掃にも参加をしている。近隣住民から野菜のおすそ分けをもらったり、遊びに来る等、日常的に地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームがあることは知っていますが、詳しい内容は知られていないのが現実です		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	厳しい指摘があっても、謙虚に受け止め、反省し、明日に活かす様に心掛けている	運営推進会議は2ヶ月に1度、家族代表、民生委員、地区代表(市議会議員)、市担当職員等の参加により開催している。会議では、入居者の生活や活動状況の報告の他に参加者との意見交換が行われている。また、参加者からの提案により、地域の自警団への入団の勧めがあり入団に至った。参加者からの提案を真摯に受け止めサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者及び地域包括支援センターとの関係は、必要最低限の関係でしかない	市担当職員とは介護保険の更手続き時に話合う機会がある他、資料等を頼まれる事やホームの空状況を伝える等、情報の共有に取り組んでいる。	市担当部署や地域包括支援センターに積極的に出かけて意見や情報を収集すると共に、長年地域で活動しているホームである良さをアピールしていく等、更に密接な連携と協力関係に取り組まれる事に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一日中多動で鍵を開けようとする利用者の方がおられ、現状ではやむを得ず鍵を掛けている	管理者は口頭等で職員に身体拘束に該当する行為を説明しており、ホームでは身体拘束の無い支援に取り組んでいる。玄関は死角になっている点や入居者の状態を考慮してやむを得ず施錠しているが、ホールからは常に外に出られる状態になっている。	入居者への安全管理や職員の負担軽減を前提としたうえで、玄関に施錠をしないケアについて職員間で継続した協議を重ね、改善に向けた取組みに期待したい。

グループホーム青い空

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今までのところ虐待はないが、これからも十分に注意して目を配って行きたいと思えます		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会等があるときは出来るだけ参加するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い、同意を得た上で契約しています また、面会時などに聞かれた場合には丁寧に説明しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、担当が出来るだけ家族と話し合うようにしています 要望などは職員間で話し合い、実行できるようにしている	家族からの意見は、基本的に居室担当職員が中心に申し送り帳を活用し情報の共有をすると共に職員間で話し合いを行い、改善や運営に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の引き継ぎや、職員会議等に話し合っ、次へと活かしています	ケース会議後に毎月1回職員会議を開催しており、管理者は職員からの意見や提案等を受け入れている。また、職員へ外部の研修への参加も勧めており、人材育成や運営のステップに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年勤務状況に応じ、昇給を実施している 親睦を深める為、慰安旅行に行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員が年一回以上研修に参加し、質の向上に努め、仕事に活かしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加し交流する機会を作っている 他のグループホームとの交流も頻繁ではないが、している		

グループホーム 青い空

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に関する書類等の情報や家族からの聞き取りを基にしながら、本人との会話の中から感じ取る様心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から要望があれば、出来るだけ沿うように努めている また相談や不安なことがあれば、職員で話し合い解決していくよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の要望などを基に職員で相談し、必要に応じた支援をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを忘れずに、声掛け等に気を配りながら接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に一度ですが、納涼祭を行い本人と家族が楽しい時間を過ごせるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方が来所されたり、誘って外出されたりしています	入居者は重度化してきているが、家族の他にも様々な旧知の友達が来所しており、入居者と外出をすることもある。職員は馴染みの人や場所との関係が途切れないように、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの実情を把握し、利用者間の理解に努め、共に暮らしを楽しめるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人の習慣やケアの工夫などを移り住む先の関係者に対し報告している		

グループホーム 青い空

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向等は担当が主に話を聞いて、職員会議等で職員全員で話し合い、本人にとって一番良い状態になるように努めています	職員は日々のしぐさや会話の中から本人の思いを把握し、ケア会議や職員会議等で把握した入居者の意向の共有に取り組んでおり、入居者一人ひとりの意向に応じた本人本位の対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から提供された情報、直接家族と話しての情報、また本人とコミュニケーションを図りながらの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何でも出来ないと決めつけず、本人が出来そうなものを提案し、出来ることをやっていた 本人からの訴えがあった場合は、職員と共に様子を見ながら行う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年毎に見直し、その他毎月全員のケースを話し合っている	介護計画は担当職員が記入したものを基に毎月ケース会議を開催しており、家族の意見や要望、毎月往診に来所しているかかりつけ医の指示により半年毎に見直しをし、現状にあった計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全員のケースを話し合う場において、主に担当から今の状況、そして提案など報告を受けるとき、日々付けているいろいろな記録を参考に、話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態や問題を、職員全員で常に把握し、その時々で必要なサービスを提供している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等の協力を得て支援している		

グループホーム青い空

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一回、主治医の往診を受けている また、本人の訴えや体調の変化で、他の医療機関の受診を支援している	毎月、第2火曜日にホームの協力医でもある主治医の往診があり、本人及び家族も安心して受診している。他医療機関での受診の際には適切な医療が受けられるよう職員の付き添いによる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や異状に気付いた時は常に主治医に連絡を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族そして病院との情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、ホームとで密に連絡を取り、重度化した時や、終末期に対しての話し合いを、常に行っている	重度化や終末期への対応については常に家族と要望の確認や意見交換を行っており、ホームでは看取りも行っている。主治医とは常時連絡が取れる体制になっており、主治医の指示の下に職員間でも方針を共有し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会に参加し応急手当の訓練を受けて実践力及び知識を習得		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、通報、消火訓練を年2回実施 地域の防災訓練に参加、そして火災通報登録に地域自警団に協力を得ている	年2回、避難・通報・消火等の消防訓練を実施しており、9月下旬には夜間時の避難訓練も予定している。地域の防災訓練に参加したり、地域自警団にも加入しており地域との協力を構築している。緊急通報装置に緊急時のマニュアルが掲示してある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日言葉使いは「はい、いいえ」と確認している 本人のプライバシーに関することは、ご家族以外には話さないようにしている	入居者の尊厳やプライバシー、個人情報保護等は職員会議の中で話し合い共有している他、職員は接遇研修にも参加して接遇の向上に努めている。	ホームでは入居者の人格を尊重し、プライバシーの保護に積極的に取り組まれているが、今後、職員間での接遇等のレベルの差を無くすためにも、接遇マニュアル等を作成し支援の向上に取り組まれる事に期待したい。

グループホーム青い空

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話する場面、時間を出来るだけとるように心掛け、本人の出来ることを見つけだし、出来るように援助している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿うよう支援しているが、時には職員側の都合になることがある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時など、本人と相談しながら服装を決めている 希望により理容は、職員がカットしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体の状態で一緒に準備できる方がいない 食事は全員一緒に食べている	入居者の重度化に伴い、準備や片付け、調理を職員と一緒に出来なくなっているが、入居者は食前の声かけを順番に行う等、役割を持ち、ゆったりと楽しい食事が摂れるよう職員も一緒に同じものを食べながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事があまり摂れない時などは栄養補助食品などを摂ってもらっている 献立には魚などを多く取り入れている 水分が取れていないような人は水分摂取記録を付け、多く飲んでもらうようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯のある方は、一日三回、食後歯磨きをしている いればの方はポリデントを使用 うがいが無理な方は、イソジンのガーゼで消毒している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくフロアトイレへの誘導を行い(2~3時間おき)、トイレでの排泄を目指している 状態によってオムツ等の対応を行っている	排泄が自立している入居者には何気ない声かけを行い誘導をしている。排泄に介助が必要であり、オムツを使用している入居者にはその都度時間を見計らいながら介助によりできるかぎりトイレでの排泄支援をしている。	全ての入居者がトイレで排泄出来るように支援しているが、今後は職員間で排泄の自立に向けた支援方法の研修や職員間での協議をととして、入居者一人ひとりに合った支援に取り組まれる事を期待したい。

グループホーム青い空

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動はあまり出来ていない 献立に繊維質の食品や、ヨーグルトを多く入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めているが、入る順番や湯舟に浸かる時間など、可能な限り要望を聞き支援している 入浴剤使用	入浴日は月・水・金曜日の午前10時～11時30分と午後1時30分～3時30分の時間帯にて支援している。入浴の順番や時間等の希望等も極力受け入れながら、楽しく入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安楽姿勢で休んでいただけるようクッション等の利用、そして体位変換の実施、朝食後及び昼寝の声掛け介助の支援		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量の表を作成している 症状の変化に気を配り、月一回の往診時または変化が見られた時は、主治医に相談し服薬の調整をお願いしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事に、野外食や外出、野外でお茶など取り入れている 出来る範囲で掃除、洗濯物たたみなどしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族が花見、お参り、花火、思い出の場所などに誘ってくださり、外出や外泊をしている	入居者の重度化や高齢化により、以前行っていた日常的な外出が難しくなっているが、庭先でのお茶や近所への散歩等を行っており、出来る限り外に出る時間を設けている。今年の5月には家族にも参加を呼びかけ、一泊の温泉旅行も実施しており、入居者も家族と共に楽しい日を過ごすことができたこと好評だった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は預り金として施設が管理している 本人の好きな衣類を買いに出掛ける時などは、本人がその金を支払うようにしている		

グループホーム 青い空

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときは、事務所から掛けています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食道などには花を飾っています 共有空間は清掃を毎日し清潔です	共用空間には清掃が行き届き、不快感は感じられず、居心地良い空間づくりに取り組んでいる。窓からは周辺の里山等が眺められ、自然を満喫できるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースがないこともあり居場所の工夫はあまり出来ていない		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談の上、テレビ、家具など置いている 各居室担当者が、季節に応じて飾って、心地よく過ごせるように工夫している	各居室には入居者各々が馴染みの家具やテレビ、小物類を持ち込んでおり、入居者が居心地よく過ごせるよう支援に取り組んでいる。また、居室担当職員により居室の入り口には部屋毎に色違い暖簾が掛けられており、入居者が自分の部屋を分かりやすいように工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の状態に合った対応、介助を心掛けている		